

# 交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2011年3月11日

No. 16

## 11春闘第4回賃上げ交渉報告！

中央本部は、本日10時から「11春闘第4回賃上げ交渉」を行い、会社は賃上げに対する考え方を明らかにしました。

会社の考え方は以下の通りです！

- ①H22年度の収入動向は、3月単月は昨日時点で対計画+6300万円。よほどのことがない限り事業計画通り達成する見込みである。これは社員の努力のおかげである。
- ②H23年度の事業計画は20億円の経常利益を目標としている。中長距離の特性を活かし達成させたい。しかし、日本経済は足踏み状態であり、経済成長率は昨年より低い。国内総物流も減少している。
- ③また、JR貨物として安定的な黒字経営が必至であるが先行き不透明である。税制特例がH23年度で打ち切りとなると13億円、軽油引取免税が適用されなくなると16億円の負担増になる。
- ④輸送資材の老朽化も進んでおり、投資額を増やしていかなければならない。
- ⑤以上の状況から、定期昇給については所定実施するが、将来にわたる不確定要素があることからベア実施は厳しい。

中央本部は、無責任な考え方を断じて許さず以下の点について糾しました。

- ①税制改正などの外的要因は、極めて経営責任において解決すべき問題であり、その責任を組合員に押し付けるのは許さない！ 将来どういう会社にしていくのか、経営姿勢が曖昧である。
- ②職場では過度な効率化を推進する一方、会社は右肩上がり状態。収入未達となっているにも関わらず黒字達成できたのは定期昇給半年見送りを含め我々の努力の結果である。その成果をベアで還元すべきである！
- ③会社は、禁止手である定期昇給半年見送りを実施した事の重大さと、職場の組合員の苦勞と努力をまるで分かっていない！
- ④前回交渉で確認したが、我々の苦勞に対する還元の形も何も示されないまま、今交渉では納得のいく内容は何ひとつ示されていない。ベアゼロは絶対に許さない。会社は回答指定日までに組合員が納得できる回答を示すべきだ！

組合員のみなさん。会社は我々の指摘に対しても「主張は理解している」「これまでの努力に対しては感謝している」など、言葉だけの曖昧な回答しか示しません。前回の交渉で私たちの苦勞にたいする還元を見える形で示すことを確認しましたが、今交渉では何も示されていません。

貨物会社は後のない厳しい1年を貨物労組は、定期昇給半年見送りという苦渋の中でも、集中豪雨や大雪による大幅な輸送障害に対し、職場の必至の努力により乗り切っただけに他なりません。計画達成し来年度達成に向け頑張るといふのなら、ベアを出せない理由はどこにもありません！ベアゼロ姿勢に対する会社経営陣の無責任な姿勢に対し「3.15全国統一行動」を成功させ組合員の総団結を持ってベアゼロの壁を突破しようではありませんか！中央本部はその最先頭に立って闘うことを改めて決意し、第4回交渉報告とします。

次回交渉（回答指定日）は3月18日（金）です。